



7 石山寺・竹生島図 清水節堂 対幅

昭和二年（一九二七）頃

絹本着色

本紙各一六九・四×八六・八

極彩色で彩られた春の石山寺と、冷え冷えとした月明かりに照らされた雪景の竹生島という、近江の名勝を描いた対幅。右幅の石山寺図は、彼方に比叡山と琵琶湖、そして瀬田橋が見え、前景では華やかに桜が開花した石山寺の境内が描かれる。画面中央には寺名の由来となった巨岩が描かれ、その奥の瀬田川を望む位置には有名な観月堂が確認できる。近江八景の一つに「石山秋月」とあるように、同寺は観月の名所として知られていた。

対する左幅の竹生島図は、雪化粧された竹生島の社殿（宝巖寺、都久夫須麻神社）越しに琵琶湖と伊吹山が描かれる。古くより聖域として祀られてきた竹生島は、奈良時代に聖武天皇の勅願によって宝巖寺が創始され、歴代天皇の行幸も頻繁に行われた。その後西国札所のひとつとなり数多くの参拝者が訪れた。

作者の清水節堂（一八七六～一九五二）は、浅井郡大路村（現在の滋賀県長浜市大路町）の生まれで、中川耕齋に師事した後に京都市美術工芸学校絵画科に入學した。また東京美術学校にも九ヶ月ほど在學し、橋本雅邦らの教えを受けたという。本図は節堂より昭和二年（一九二七）に滋賀県知事を通じて献上された。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan